

# 小金井市長期計画審議会

## 配付資料一覧

平成21年 11月 11日

	No.	資 料 名	備 考
第1回 (6月12日)	1	小金井市長期計画審議会条例	資料1
	2	小金井市長期総合計画策定本部設置要綱	資料2
	3	小金井市市民参加条例(抜粋)及び同施行規則(抜粋)	資料3
	4	小金井市長期総合計画策定方針	資料4
	5	長期総合計画に係る討議要綱	資料5
	6	長期計画審議会のスケジュールについて	資料6
	7	小金井市長期総合計画(第3次小金井市基本構想・後期基本計画)	参考資料1
	8	同 上 概要版	参考資料2
	9	平成20年度小金井市長期総合計画策定のための市民意向調査報告書	参考資料3
	10	同 上 概要版	参考資料4
	11	こがねいデータブック2008(旧名:小金井市の現況'04)	参考資料5
	12	こがねい市民討議会2008実施報告書	参考資料6
	13	長期総合計画策定に係る「子ども懇談会」開催結果	参考資料7
	14	市勢要覧2008	参考資料8
	15	わたしの便利帳	参考資料9
	16	小金井市長期計画審議会委員名簿(第4次)	参考資料10
第2回 (7月15日)	17	基本構想の策定要領について(通知)	資料7
	18	多摩26市の基本構想の構成について	資料8
	19	市民の参加・協力による市内イベント一覧	資料9
	20	長期計画審議会における検討の流れについて	資料10
	21	市内視察予定表	参考資料11
	22	辞任願(写)	参考資料12
	23	長期計画審議会の「会長辞任」について	参考資料13
	24	会議録の調製について	参考資料14
	25	長期計画審議会 工程表	委員提出資料1 (三橋委員)

第3回 (8月3日)	26	多摩26市の基本構想の構成について	資料11
	27	市民意向調査における住み心地・定住志向に係る比較結果について	資料12
	28	踏まえるべき社会潮流について	資料13
	29	市民参加の全体像について	資料14
	30	長期計画審議会における検討の流れについて	資料15
	31	長期計画審議会工程表	資料16
	32	会議結果の作成について	参考資料15
	33	「討議要綱」についての質問	委員提出資料2 (鮎川委員)
	34	踏まえるべき社会潮流についての意見	委員提出資料3 (吉良委員)
	35	こがねいデータブック2008についての質問と意見	委員提出資料4 (吉良委員)
	36	討議要綱「踏まえるべき社会潮流」等についての意見	委員提出資料5 (鴨下委員)
	37	こがねいデータブック2008に関するコメント	委員提出資料6 (永田委員)
	38	「踏まえるべき社会潮流」等への意見について	委員提出資料7 (三橋委員)
	39	長期計画・討議要綱への意見	委員提出資料8 (五十嵐委員)
第4回 (8月31日)	40	第4次小金井市基本構想(素案)前半	資料17
	41	小金井市長期計画審議会(第3回)質問及び回答	資料18
	42	小金井ボランティア・市民活動団体パンフレット	参考資料16
	43	踏まえるべき社会潮流	委員提出資料9 (玉山委員)
	44	社会潮流(社会経済構造の変化)について	委員提出資料10 (三橋委員)
第5回 (9月17日)	45	第4次小金井市基本構想(素案)前半についての意見	事前配布資料 鮎川委員
	46	長期計画審議会・基本構想(素案)前半への意見	事前配布資料 五十嵐委員
	47	「長期計画審議会・基本構想(素案)前半」について	事前配布資料 鴨下委員
	48	こがねい市民討議会2009 実施報告書	当日配布資料
	49	小金井市長期計画起草委員会設置要綱	当日配布資料
	50	第4次基本構想(素案)前半の構成について	当日配布資料
	51	第4次小金井市基本構想(素案)前半	当日配布資料 淡路委員
	52	社会潮流(社会経済構造の変化)について	当日配布資料 三橋委員
	53	素案の骨格を考える上での各項目の要約(キーワード)	当日配布資料 三橋委員

第 6 回 (10月7日)	54	「協働」について	事前配布資料 渡辺委員
	55	小金井市協働推進基本指針	事前配布資料
	56	第 4 次小金井市基本構想（素案）後半（施策の大綱等）	事前配布資料
	57	第 4 次小金井市基本構想（素案）前半についての意見	当日配布資料 玉山委員
	58	市民懇談会の概要及び広報について	当日配布資料
	59	第 3 次基本構想・後期基本計画の主な事業及び評価について	当日配布資料
	60	第 4 次基本構想・前期基本計画の施策の体系	当日配布資料
	61	基本構想の目的と策定意義・役割	当日配布資料 淡路委員
	62	基本構想の枠組み	当日配布資料
第 7 回 (11月11日)	63	小金井市長期計画審議会意見	当日配付資料 三橋委員
	64	第 4 次小金井市基本構想（素案）後半についての意見	当日配付資料 今井委員
	65	第 4 次小金井市基本構想（素案）後半についての意見	当日配付資料 鴨下委員
	66	第 4 次基本構想（素案）第 6 章修正案（一部）	当日配付資料 淡路委員
	67	第 4 次小金井市基本構想（素案）修正案	当日配付資料
	68	基本構想の構成	当日配付資料 三橋委員

## &lt;意見&gt;

委員提出資料NO	意見対象元資料	項目	内容	委員名	扱い	施策の大綱等
2	社会潮流	情報化社会の進展(教育)	・デジタル・デバイドの解消には全世代(特に高齢者)のインターネット利用率の向上が必要。情報通信基盤の整備は大変重要だが、ハード面だけでなく、市民の活用能力の底上げを考慮すべき。	鮎川委員	基本計画で議論	(文化と教育)
3	市の現状 データブック	少子高齢化(子育て支援)	・合計特殊出生率は、小金井市は全国・都の水準より低くなっており、子供を育てやすい環境整備が大事。例えば千葉県流山市では駅ビル内に児童引受所を設け、保育園へ送迎するサービスを行う等、保育園の利便性と均衡を図り待機児童を無くす試みを行っており、駅前整備のこの時期に検討すべき。	吉良委員	基本計画で議論	(福祉と健康)
3	社会潮流 市の現状	少子高齢化(子育て支援)	・小金井市は、緑のイメージポイントが高いが、インフラ面で府中市や武蔵野市に遅れをとっており、20代、30代の子育て世代に住環境を安価に提供できるようにすることでポイントをアップを目指すべき。	吉良委員	基本計画で議論	(福祉と健康)
3	社会潮流 市の現状	情報化社会の進展、市民活動の活発化	・IT時代にふさわしい図書館、市民活動の拠点として(高齢者社会への対応の観点からも)公民館等の複合施設を整備すべき。	吉良委員	基本計画で議論	(文化と教育)
3	社会潮流 市の現状	産業構造の変化(環境)	・グリーンニューディール政策に関連して、市としてもソーラーパネル設備設置に対する補助金を新設すべきではないか。	吉良委員	基本計画で議論	(環境と都市基盤)
4	データブック	都市計画道路	・都市計画道路3-4-1号線から3-4-3号線に連雀通りの分断箇所があり計画から外れているが、現状最も危険な箇所であり、除去作業が優先されるべき。 ・都市計画道路3-4-1号線は、計の緑地保護の上から再考すべき。 ・3-4-11号線の連雀通り南部の計画線については、西武多摩川線を高架にして下を道路に活用するほうが、財政負担が大きくなるが、計画が早期に実現できるのではないかと。	吉良委員	基本計画で議論	(環境と都市基盤)
4	データブック	都市計画道路	・道路交通法の改正により自転車は基本的に車道を走ることとなり、エコの上からも自転車利用を推進していくため、事故防止と安全を考え、自転車専用レーンを整備していく必要がある。また、駅前駐輪場の整備に力を入れるべき。	吉良委員	基本計画で議論	(環境と都市基盤)
4	データブック	環境と都市基盤	・CO2の削減目標及び行動計画が無いのが残念。太陽光発電、ソーラーパネルの普及につながる削減指標を提示してはどうか。	吉良委員	基本計画で議論	(環境と都市基盤)
5	社会潮流	少子高齢化	・子供を産んだり、育てたりするのに費用が多くなるため、子供をたくさん産めないのではないかと。財政が厳しく、国が考えることでもあるが、小学生(又は中学生)までは医療費を無料等にした、保育園を増設すれば、子育てをしている家庭は小金井にもっと集まる可能性あり。	鴨下委員	基本計画で議論	(福祉と健康)
5	社会潮流	環境問題	都内の各自治体では省エネの推進や太陽光発電施設への助成などを導入しているが、家庭での削減は中々難しい。空気中に排出される二酸化炭素を植林や森林保全へ投資することで相殺する「カーボンオフセット」という積極策があるが、小金井市としてはどのような具体	鴨下委員	基本計画で議論	(環境と都市基盤)
5	社会潮流	情報化社会の進展(教育)	小中学生の携帯電話の所持の是非(持たせる必要はあるか、行政による一律の規制は必要か)について、	鴨下委員	基本計画で議論	(文化と教育)
5	社会潮流	市民活動	・子供会や町内会、自治会といった地域密着の基盤が弱まり、お隣の独り暮らしのお年よりも気にかける、あるいは不審者や空き巣などの犯罪を助長する面も出てきている。近隣との団結や絆をある程度保っていかねばならないような模索も必要である。	鴨下委員	基本計画で議論	(地域と経済)
6	社会潮流	全般	・高齢化が進んで福祉面でのインフラが厳しくなってくる。潮流としてはいろいろあるが、小金井市としての重点的位置付けが必要。	永田委員	社会潮流及び市の課題で議論	
6	データブック	都市計画道路	・今後の都市計画道路の整備は安全上問題となる場所の拡幅、歩道の設置、交通量の処理上問題となる箇所の整備等であるが、計画中の道路については、小金井市は第一種低層住居専用地域の比率が高く、幅員4m以下の狭幅道路に面した木造戸建てが多く、都市計画道路の整備には非常に労力がかかるため費用便益の観点からプライオリティを検討すべき。再考を要する道路は次の通り。 ・都市計画道路3-4-1及び3-4-3(連雀通りで代替可能) ・都市計画道路3-4-12(住宅街を横断し、実現性が低い) ・都市計画道路3-4-11又は代替する道路(市域東部を横断する道路)の整備が望まれる。	永田委員	基本計画で議論	(環境と都市基盤)
6	データブック 市民意識調査	防災	・高齢化が進んだ木造建築物が密集する地域が存在し、火災の危険度には課題が大きい。また、市民の防災に関する満足度は6割が満足していないことから、その背景について調査が必要。	永田委員	基本計画で議論	(地域と経済)
6	市民意識調査	上下水道等	・合流式下水道の分流化への改善や、老朽化した管路更新等が必要となり、社会インフラの更新に関するスキームとライフサイクルコストの低減に関する情報等について市民への展開が必要	永田委員	基本計画で議論	(環境と都市基盤)
7	社会潮流	全般	・網羅的に書くことは難しいので、重点を踏まえて、市民にわかりやすくするよう3~4つぐらいに絞って整理すべき。	三橋委員	社会潮流で議論	
7	市の現状 市の特長	全般	・社会潮流、課題、(討議要綱)の論点等と整合的であるべき。	三橋委員	市の現状・課題で議論	
8	社会潮流	各項目	・討議要綱の社会潮流に関する参考資料(資料13)の文言の修正(具体的な修正案は委員提出資料参照) ①日本全体は人口は減少するが小金井市は微増か横ばいではないか。 ②「財源について自ら責任を持って確保しなければいけない」という表現は強い。 ③「環境と調和を目指す動きが広がりつつある」→表題で深刻化といっているのでもっと表現を強くすべき ④情報化社会に関連して「あふれる情報をどう取舍選択するかを含め」を追記すべき ⑤財政力など自治体格差は「予想される」ではなく、すでに懸念される問題となっている。 ⑥市民活動の活発化に関連して「高齢化に伴い、定年退職後に地域で活動する人々の増加も背景となって」を追記すべき ⑦「アメリカの『グリーンニューディール』に代表される」は削除すべき(日本の方が技術的には進んでいるのではないかと) ⑧食品偽装事件は「産地偽装」だけではなく、「表示の偽装」を追記すべき。また国民保護法については、「平成16年に」を追記すべき	五十嵐委員	指摘いただいた資料は、あくまで参考資料の扱いであるが、ご意見の考え方については、基本構想の社会潮流を議論する時点で確認する	
	討議要項等	全般	・第三次の基本計画に対して何ができて、何ができなかったを精査された上で、討議要綱ができたのだらうと理解しており、その意味で考えると、基本的にこの討議要綱を支持したい。 ・市の計画等は、行政が作って与えるものだという感覚が非常に強いので、個々の市民が表に出てくるような、市民が浮き上がってくるような考え方がうたわれるとよいのではないかと。	渡辺委員	基本構想全般、特に「まちづくりの基本姿勢」や施策の大綱(計画の推進等)のところで検討	
	社会潮流等	全般	・今までの討議の中では、危機意識が足りない。相当独自のもの、地域特性を生かしたものがないと中央線で選ばれなくなる。小金井市の強みをしっかり出していかないと、強みを生かした基本構想は立てられない。 ・基本構想の大枠は10個ぐらいの重要なプレースを、社会潮流(マクロ)で3つ、市の現状(ミクロ)で2つ、市の特長で4つぐらいのものでないと考えられない。また、通常のマクロ分析から考えると、マクロの9つは多い。	淡路委員	基本構想全般	

委員提出資料NO	意見対象元資料	項目	内容	委員名	扱い	施策の大綱等
	社会潮流 市の現状	少子高齢化 情報化社会の進展	・今後の税収や市民ニーズを考えると、行政だけで応えていくのは難しく、民間の団体が活動しやすいように行政で旗を振っていく等、行政の役割の話をしていければいいのではないかと。 ・住みやすさの向上を考えると、不動産を持っていない、若者の気持ちを捕まえていくことが非常に大切。 ・情報化社会に関して、多量にある情報の一元化をしたり、伝達手段を多様化させて必要としている人に必ず伝わるようにしていく仕組み	町田委員	基本計画で議論	(地域と経済)
9	社会潮流		・人口減少、環境問題などのため、大規模開発、維持管理に多大な費用、労力が必要とされるものは、必要がないのではないかと。徹底的な無駄の排除やエコについて、真剣に進展させる必要がある。 ・情報化社会の進展、市民ニーズの多様化については振り回されたい態度も必要。市も核なるビジョンを確立し、オピニオンリーダーとしての面も考えるべきだ。	玉山委員	基本計画で議論	(環境と都市基盤) (地域と経済)
9	市の現状	都市基盤整備の 進展	・駅前の整備は必要最小限にすべきである。過大な投資は景気の予測もたない現在では不安である。都の助成などについても無駄に使うのは厳に慎むべきである。 ・再開発が大きくなると、駅前ロータリーも大きく広がり、徒歩距離は延びる印象である。駅前商店街のように、気軽な距離ではなくなるのではないかと心配だ。	玉山委員	基本計画で議論	(環境と都市基盤)
9	市の特徴		・必ず上がるのが緑の多さであるが、大規模公園はすべて都立公園であり、生産緑地は減少しているのではないかと。 ・教育環境については学力レベルが常に上位であると言われるが、子供たちが自分達で好きなように好きなところへ行ける、そして好きにできる時間、仲間をして自由に過ごせる場所の存在が軽んじられている気がしてならない。若者の問題行動が話題になる昨今、そのようなことが遠因になっているのではないかと危惧している。 ・市は市民活動と継続的に上手につながることで協働が成立し、手を広げることが可能となるが、そのためには協働について正しい認識が不可欠である。安い労働力、もしくはボランティアを安易な無償の労働力代わりにするようなことがあってはならない。	玉山委員	基本計画で議論	(環境と都市基盤) (地域と経済)
46	施策の大綱		行財政運営については、施策の大綱の柱の一つにしてはどうか。	五十嵐委員	基本構想・施策の大綱で議論	
	基本構想全般		4つの柱と社会潮流及び将来像とどう対応しているのかわからない。	渡辺委員	基本構想全般	
	施策の大綱		4つの柱の説明の中でパリアフリー化という言葉が3か所に出てきているので若干多いのではないかと。	渡辺委員	基本構想・施策の大綱で議論	
	基本構想全般		小金井市、地域独自の政策が見えない。	永田委員	基本構想全般	
	施策の大綱		小金井の商業、工業が活性化するような所に力を入れていただきたい。(税収を増やすという観点もあり)	今井委員	基本構想・施策の大綱で議論	
	基本構想全般		社会潮流、市の特徴・課題、重点政策、施策の大綱、将来像は整合的に整理すべき	三橋委員	基本構想全般	
	まちづくりの基本 姿勢		「市民生活の優先」の「市民」と「生活」のどちらに力点があるのかわかりにくい(「市民」に力点があると、ごみの広域支援の問題や近隣市と施設の相互議利用を進める中で、他市からは排他的に感じられないか)	三橋委員	基本構想	
	評価指標		評価指標は2つではなく、1つにまとめることはできないか。また、アンケート調査の内容に関して、改善すべき点あり。	三橋委員	基本構想	
45	将来像		評価指標は1つでよいのではないかと。2つとするのであれば異なるタイプの指標を取り入れた方がよい。	鮎川委員	基本構想	
45	施策の大綱		文化と教育の「次世代の夢と希望」は生涯学習もあるので、「みな希望」としてはどうか	鮎川委員	基本構想	(文化と教育)
46	施策の大綱		文化と教育は子ども教育だけと受け取られないよう、「ゆたかな人間性と次世代の夢をはぐむまち」としてはどうか。	五十嵐委員	基本構想	(文化と教育)
47	社会潮流		素案の8項目を、人口・経済・市民・環境の4つに集約してはどうか	鴨下委員	基本構想	
47	将来像		「みどりが育つ・子どもが育つ・きずなが育つ」と協働の意味を膨らませて「笑顔」から「きずな」にしてはどうか	鴨下委員	基本構想	
	施策の大綱		小金井市の学校の校舎は老朽化の問題はあるが、全校耐震化が終わるなど、安全な状況であり、表現に配慮してほしい	鮎川委員	基本構想	(文化と教育)
	基本構想の枠組	人口、財政	人口予測や財政については、グラフ化にしてはどうか。	淡路委員	基本構想	
	全般		図表や写真等について、第3次のような概要版作成時ではなく、現時点から検討してほしい。	三橋委員	全般	
63	施策の大綱		商店街への支援(必要であれば法人化も検討)	今井委員	基本計画で議論	(地域と経済)
63	施策の大綱		観光振興を商工会の仕事にできないか	今井委員	基本計画で議論	(地域と経済)
63	施策の大綱		市役所職員の市内在住比率を上げる	今井委員	基本計画で議論	(行財政運営?)
63	施策の大綱		商業の活性化として、例えば東小金井南口商店街をモデル地区に指定して小金井らしい賑わいの演出を考える	今井委員	基本計画で議論	(地域と経済)

第4次基本構想・前期基本計画に関する意見

今井 啓一郎

- 1 商店会への支援<必要であれば法人化も検討>  
コミュニティ、防犯・災害時にも貢献するものである。
- 2 観光振興を商工会の仕事にできないか  
例えば、観光協会の仕事を商工会へ
- 3 市役所職員の市内在住比率を上げる  
災害対応の他、地域での消費・税収に寄与するものである。
- 4 商業の活性化として、例えば、東小金井南口商店街をモデル地区に指定して、小金井らしいにぎわいの演出を考える。

鴨下 輝秋

## ②ふれあいと活力のあるまち（地域と経済）

## ■農業■

## 変更前

農地を保全するとともに、市民やNPO団体等と協力しながら担い手の育成や、認定農業者制度を推進する為、農業経営の安定化に努めます。また、農業情報発信拠点を整備し、江戸東京野菜等地元産農作物の産業化に努め、地場産品を促進します。

さらに、営農者や農業団体・市民の協力により、食育の支援やふれあい農業の充実を図ります。

## 変更後

農地を保全するとともに、JA東京むさし小金井や市民等と協力しながら担い手の育成や、認定認証農業者を支援し、農業経営の安定化に努めます。

また、駅周辺の農業情報発信拠点を整備し、地元農産物の振興に努め地場の産業を促進します。

さらに、農業者や農業団体・市民等の協力により、魅力ある農業経営が出来る農のあるまちづくりの充実を図ります。

## 変更説明

○農政：JA東京むさし小金井地区を核として市民に農業を理解していただく中で事業の運営を図っているところである。

○認定農業者：本市は、認定及び認証農業者制度を設けている。

農業情報発信拠点：農作物は市内の外れにあることから、生産物を販売する場所として駅を中心とならざるを得ない。このことから「駅周辺を加え」農産物が販売され売上が上げれば、農家の生産意欲の向上となり、これを促進する為に中心地設置が望ましい

○江戸野菜：東京全体の野菜を復活栽培として扱っている。他の農産物を考える中で、特定農産物を指すのは好ましくない。現在この他に、野菜ではルバーブ、果樹ではフェイジョア、植木では壁面や屋上緑化対策等を模索している。また、加工野菜では、ルバーブジャム・ニンジンジャムとして販売していることもあり、野菜のみならず地元農産物として、新たに設ける小金井市農業振興計画（再改定版）に委ねるのが望ましい。

○農のあるまちづくり：食育の支援やふれあい農業（市民農園・体験農園など）の充実だけでは、農業支援にはならない。魅力ある農業経営が出来る支援策、地域作りが必要である。

### ③次世代の夢と希望をはぐくむまち（文化と教育）

#### ■学校教育■

##### 変更前

学校教育の計画的推進により、児童・生徒一人ひとりが夢を持っていきいきと学習できるよう、時代に即した教育内容、特別支援教育、児童生徒及び教員の

心と体のケア、教職員の研修・研究の充実を図ります。

また、地域社会に開かれた学校の実現を目指すとともに、校庭の芝生化等、教育施設・教材等の整備・充実を図り、学習環境のさらなる整備・充実を進めます。

##### 変更後

学校教育の計画的推進により、児童・生徒一人ひとりが夢を持っていきいきと学習できるよう、時代に即した教育内容、特別支援教育、児童生徒及び教員の心と体のケア、教職員の研修・研究の充実を図ります。

また、地域社会に開かれた学校の実現を目指すとともに、校庭の芝生化・校舎の屋上・壁面緑化等、教育施設・教材等の整備・充実を図り、学習環境のさらなる整備・充実を進めます。

##### 変更説明

地球温暖化対策と農業振興を融合させ、遊歩道など回廊に導き、農家の生産意欲と造園技術者の向上を図る為、魅力ある植木の街の面影を再現する。



④誰もが安心してくらすせる思いやりのあるまち（福祉と健康）

■健康・医療■

変更前

市民自らが健康の保持と増進を図れるよう、健康教育や食育、健康相談等を充実するとともに、健康診査や予防接種等により、疾病の早期発見と予防に努めます。

また、医療機関との連携と協力体制のもと、地域医療体制の充実やかかりつけ医の普及を進めるとともに、福祉との連携を図り、だれもが安心してくらすせるよう、医療保障制度の拡充に努めます。

変更後

市民自らが健康の保持と増進を図れるよう、新生児からの食育支援や健康相談・健康教育を充実するとともに、健康診査や予防接種等により、疾病の早期発見と予防に努めます。

また、医療機関との連携と協力体制のもと、地域医療体制の充実やかかりつけ医の普及を進めるとともに、福祉との連携を図り、だれもが安心してくらすせるよう、医療保障制度の拡充に努めます。

変更説明

体格は、新生児から作られると考え、地産地消とも言える農産物を活用して栄養指導など推進を望む。特に小金井産の安全性が見える事業として展開してほしい。

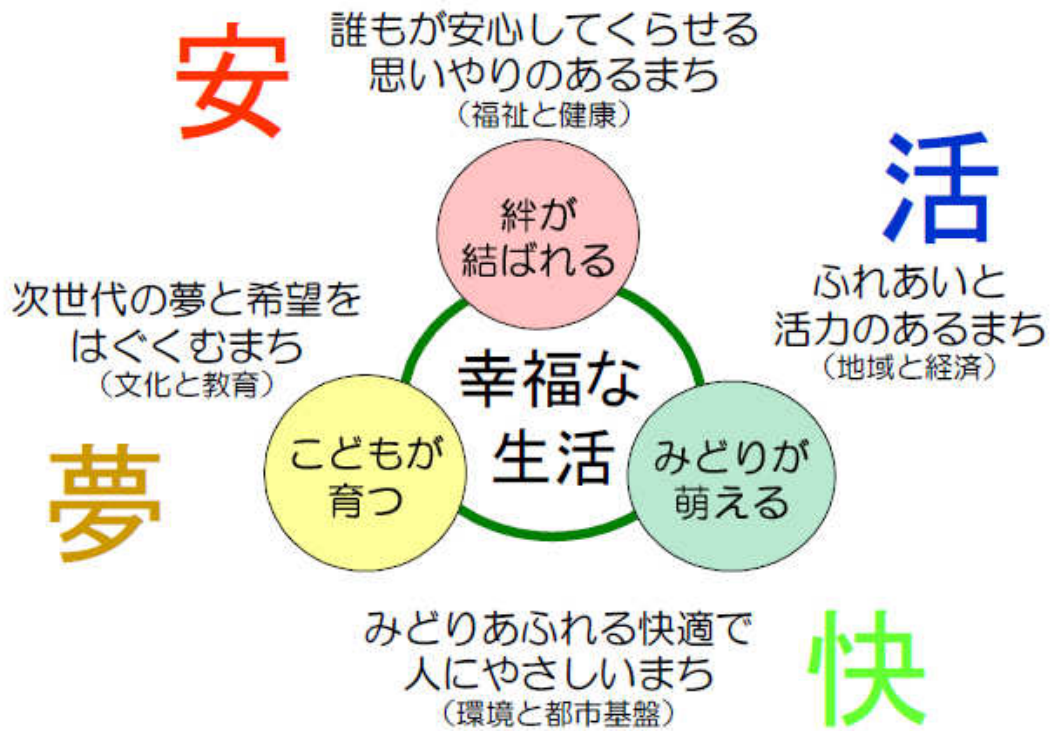
（地域の農家直売所・JA東京むさし小金井経済センターでの新鮮野菜の活用）

現在、栄養指導では小金井産が活用されず、他県産が利用されている。

また、出産届けの届け出をなされた保護者に、現在「絵本を配布」しているが、「農産物利用券に変更して」、食育の推進を図ったらどうか。

# 1. 施策の大綱を概観する

担当 淡路

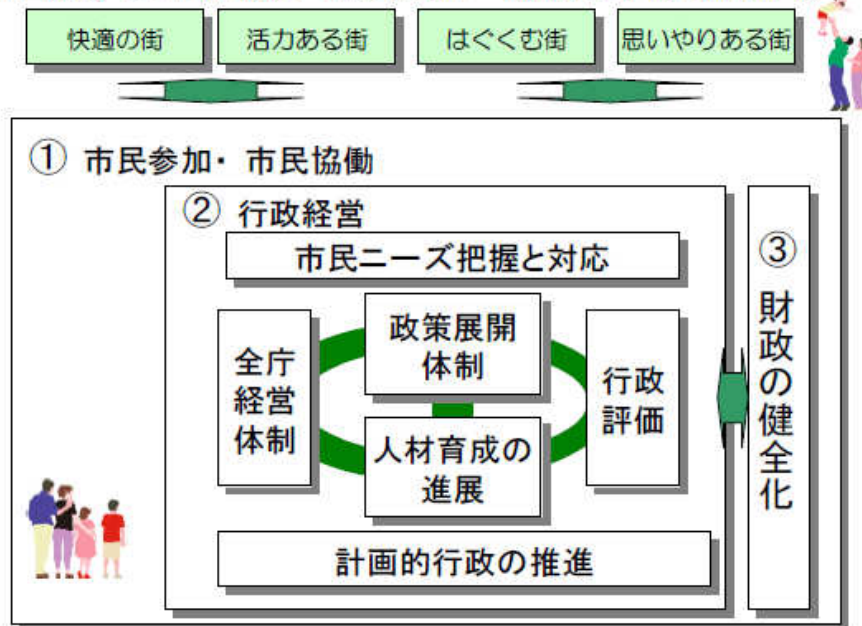


## 2. 施策の相互関連を確認する

担当 淡路

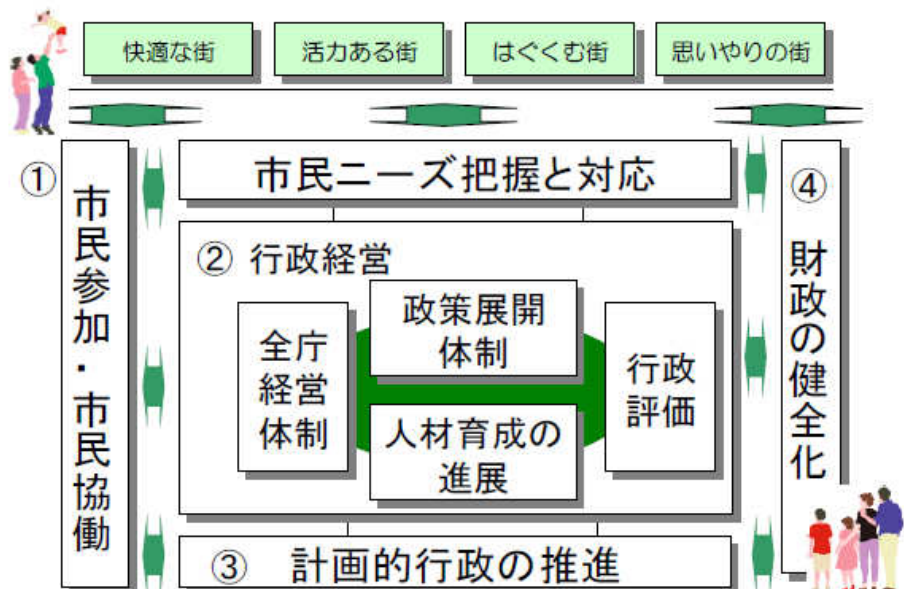
# A

計画推進の全体像(市民参加・協働の自治体経営)



# B

計画推進の全体像(市民参加・協働の自治体経営)



## 第 4 次小金井市基本構想（素案）

### みどりが萌える・子どもが育つ・絆を結ぶ 小金井市

#### 1 基本構想の目的と策定意義・役割

私たちは憲法に保障された地方自治の本旨にのっとり、市民のしあわせを増進することを目的に小金井市基本構想を策定します。

少子高齢社会の進行、価値観の多様化、経済の成熟化、環境問題の深刻化、地方分権・自治の進展等により、取り組むべき行政需要は、量的拡大とともに多様化、複雑化、高度化しています。

このような社会潮流のもと、私たちは、平成 13 年 3 月に策定した「第 3 次小金井市基本構想」を市政活動の指針として、総合的かつ計画的なまちづくりを進めてきました。武蔵小金井駅南口での駅周辺のまちづくりにより市民の利便性は向上し、各種条例の制定に見られる市民の参加・自治による制度づくり等が進展しました。

また、本市は、水とみどりに恵まれた良好な住環境、便利な市内外のアクセス、元気な高齢者が多く、教育環境が充実し、市民の自治・参加意識が高いという特徴があります。一方で、減り続けている緑の保全と拡充、新ごみの処理施設や新市庁舎の建設、駅周辺開発や道路をはじめとする都市基盤の整備、少子高齢化等への対応など、課題も山積しています。

このような現状に最適に対応して、市民のしあわせの増進を実現するためには、市民ニーズを的確にとらえ、めざすべき将来像を共有し、地域の独自の資源を活用したまちづくりを、一層の「参加と協働」によって推進することが必要になります。ここに、第 3 次基本構想の目標年次の到来を機に、新たな基本構想を策定する意義があります。

#### 【基本構想の役割】

- (1) 第 3 次小金井市基本構想の将来像で示した理念を継承し、発展させることを基本として策定するものです。
- (2) 市政活動の総合的かつ計画的な取組の指針となるものです。
- (3) 市民、団体及び事業者が、地域社会において活動をする際の指針となるものです。
- (4) 国、東京都、企業等に対し、本市が目指すまちづくりへの理解と積極的な協力を得る指針となるものです。

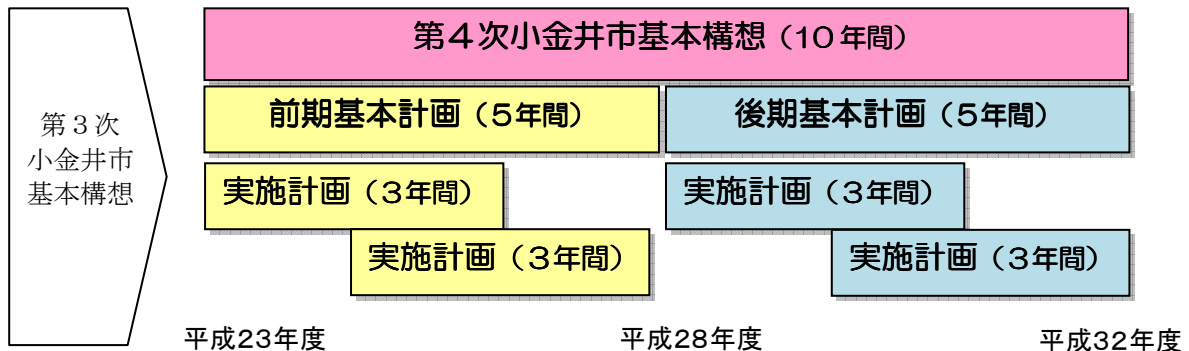
## 2 基本構想の枠組み

基本構想では、以下の枠組みを前提として、私たちを取り巻く情勢や私たちが住む小金井市の課題と特徴を踏まえて、将来像と施策の大綱を明らかにします。

### (1) 目標年次

第4次小金井市基本構想は、平成23年度（2011年度）を初年度として、平成32年度（2020年度）を目標年次とします。さらに、この基本構想を具体化するために、前期基本計画（平成23～27年度）、後期基本計画（平成28～32年度）及び実施計画を策定します。

なお、目標年次までの間に社会経済情勢などに著しい変化が生じた場合は、必要に応じて改定します。



### (2) 人口予測

おおむね12万人と予測します。

ただし、住民基本台帳による人口予測では、平成35年度（2023年度）以降減少になることが考えられますが、この人口減少にも的確に備えるものとします。

### (3) 土地利用の現状

本市は、概ね4km四方で、面積は11.33km<sup>2</sup>です。全体の約6割を宅地（公共用地・商業用地・工業用地を含む）が占めており、農用地、公園等は合わせて2割弱、残りの約2割が道路などとなっています。

東西・南北の主要な道路が人と物の動線となるとともに、駅周辺には商業施設が集積するなど、生活利便性の高い地域構造となっています。また、南北の大規模な都立公園と玉川上水・野川が潤いの空間を形成しています。

#### ① 商業・業務地

本市の全体の約6割を占める宅地面積の内、商業用地として利用されている割合は、6%強にすぎず非常に低いものとなっています。

市内には、駅周辺を中心として住宅地に近接して17の商店街が広がっています。駅周辺の地域では、まちづくりの進展により、土地の高度利用が図られつつあります。

② 住宅地

宅地面積に占める住宅用地の割合は約7割と非常に高いものとなっています。都市計画では、住居専用地域・住居地域は合わせて9割を占めています。その内、第一種低層住居専用地域が7割弱と、多摩26市平均よりも高い割合となっており、閑静な住宅地となっています。

③ 農地・生産緑地

農用地の占める割合は1割弱と非常に低いものとなっており、経営耕地面積及び生産緑地は年々減少する傾向にあります。

野菜・果物や植木等が栽培されるとともに、市民に土とみどりのうるおいを与え、子どもにとっては教育の場となり、災害時には安全確保の役目を果たしています。

④ 公園・緑地等

公園等の割合は1割弱となっておりますが、都市公園・市立公園の面積は微増しました。また、特別緑地保全地区として滄浪泉園が指定されています。(※緑地の減少について記述を追加)

市の外周部に小金井公園や武蔵野公園、東京学芸大学や東京農工大学などまとまったみどりがありますが、中心部ではみどりの減少が目立っていました。武蔵小金井駅南口第一種市街地再開発事業、東小金井駅北口土地区画整理事業では、みどりの創出に向けた整備が進められています。

(4) 財政状況 (※数値の取り扱いについて検討。課題と内容が重複との指摘あり。)

本市の財政状況は、平成7・8年度に経常収支比率が全国ワースト1位になる等、危機的な状況にありましたが、財政健全化に向けた全市的な取組により、一定の改善が図られました。

平成19年度に最高値を更新した人件費比率は、さらに1.9ポイント減の22.0%となりましたが、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、96.5%となっております。

しかし、多摩26市平均と比較すると、経常収支比率は多摩26市平均91.4%に対して92.3%、公債費比率は8.3%に対して8.7%、人口1人当たりの財政調整基金現在額は17,442円に対して17,345円に留まっています。

### 3 社会潮流と小金井市の現状（特徴と課題）

\* 数値に関する表現及び並び方（特徴と課題を分けるかどうか）については、検討します。

また、重点施策（プロジェクト）との関係も要整理

#### （1）社会潮流

今、社会を取り巻く環境は大きく変化しています。このような社会潮流を認識した上で、将来の本市のまちづくりを進めていきます。

##### ● 少子高齢社会の進行

わが国の合計特殊出生率は、1.34（平成19年）と先進国の中でも最も低い水準であり、高齢化率は22%（平成20年）と過去最高を更新し、中長期的にも少子高齢化はさらに進むと予測され、福祉・教育・労働・社会保障等あらゆる面での影響があると考えられます。

一方で、団塊の世代の大量退職や高齢者の増加による新たな需要の創出や地域社会の担い手の役割も期待されています。

##### ● 価値観の多様化

グローバル化により社会経済活動が地球的規模で展開されるなか、国際化や生活水準の向上などにより個人の価値観やライフスタイルの多様化が見られます。また、社会貢献に対する意識の高まりや、元気な高齢者の増加等により、市民活動や地域独自の活動が活発化しています。

##### ● 経済の成熟化

経済の成長率は1990年代以降の平均で約1%、経済活動が成熟化してきた中で、今後も右肩上がりの高成長経済を見込むことはできず、持続的成長を目指していく経済構造の中で、新たな価値を創造し、雇用の安定を図り、生活の質を向上させていくことが求められています。

##### ● 環境問題の深刻化

より快適で便利な生活を追求してきた一方、身近な自然が失われつつあり、森林の減少や大気汚染、温暖化等は、地球規模の問題となっています。地球環境を守り、次世代に引き継ぐために、産業構造の転換、廃棄物の発生抑制、リサイクル等を進めると同時に、緑を守り育て、環境に優しい循環社会の構築に向けた取組が求められています。

##### ● 地方分権・自治の進展

社会経済環境の変化により地方分権改革は進展し、これまで以上に地方自治体の権限の強化や財源の拡充により、多様化する市民ニーズへのきめ細かい対応が期待される一方、「参加と協働」を推進し、自律した自治体経営を行っていくことが責務となっています。

## (2) 市の現状（主要な特徴と課題）

私たちの住む小金井市には、様々な特徴と課題があり、まちづくりを進めていく上では、社会潮流を踏まえ、課題を解決しつつ、特徴を生かしたまちづくりを進める必要があります。

### A みどりと環境

#### 【特徴】みどり豊かで良好な住環境

本市は野川、玉川上水や国分寺崖線、武蔵野公園、野川公園、小金井公園等、豊かな水とみどりに恵まれています。雨水浸透ますの設置比率は世界一であり、野川流域では都内で唯一の自然再生事業の指定を受けるなど、私たちはこれらの貴重な自然を守り育ててきました。

また、市域に占める宅地の半分近くが第一種低層住居専用地域となっており、みどり豊かで良好な住環境を形成しています。

#### 【課題】みどりの保全と拡大・ごみ対策

第3次基本構想の計画期間を通じて、みどりの保全と拡大を進めましたが、市内のみどりは%減少しています。これまでと同様な施策ではこの傾向を改善することは難しく、抜本的な対策を実施する必要があります。

また、市内から発生する可燃ごみについては、老朽化が進行した二枚橋焼却場の運転停止により、その全量を多摩地域の各団体の支援に基づき、焼却処理をお願いしています。

このため、安定的かつ確実にごみ処理を行うことができるよう、建設場所周辺住民との信頼関係を重視しつつ新ごみ処理施設の建設に着実に取り組み、一層のごみの減量を推進することは市政の最重要課題となっています。

### B まちづくり（都市基盤整備とその活用）

#### 【特徴】便利な市内外へのアクセス

本市は中央線で都心まで約30分という場所に位置し、約4km四方と入り組みが少ないコンパクトな地形となっており、比較的発達した路線バス網が整備されています。また、平成21年度中に中央本線上りの高架化が完成し、踏切による慢性的な交通渋滞の解消や、鉄道により南北に分断されていたまちの一体化が実現しています。

#### 【課題】駅周辺開発、道路等の整備とその活用

平成21年3月に武蔵小金井駅南口第1地区の「まちびらき」が行われましたが、今後更に利便性の高い生活環境を整備するため、駅前広場や文化ホールの活用、商店街の活性化など、ソフト面での取組が求められます。また、北口や第2地区の再開発、東小金井駅北口についても、地権者や市民の意向を踏まえつつ、着実に整備を進めていく必要があります。

都市計画道路の整備については、基幹道路の拡幅整備等により、円滑な交通と市民の安全確保や利便性を高めるとともに、周辺住民の防災対策の向上、地域経済の振興につなげていく必要があります。



## C 子ども・高齢者・障害者

### 【特徴】元気な高齢者と充実した教育環境

市民の平均寿命の長さやシルバー人材センターの組織率は全国でもトップクラスです。また、教育は学校教育のみならず、生涯学習を含めた地域や家庭との連携と努力により、社会全体で子どもを支える体制の整備を進めた結果、都内でも上位に位置する学力を誇っています。

「こどもが元気なまちが発展する」を合言葉に市のイメージキャラクター「こきんちゃん」を活用した運動を展開しています。

### 【課題】子育て支援、高齢者・障害者福祉

本市の合計特殊出生率は1.00と多摩26市中25番目（平成19年）となっており、15歳未満の年少人口も他自治体と比べて低下が進行しています。待機児童の解消や保育サービスの充実、適正規模の学童保育のための環境整備等が課題となっています。

また、高齢者数が過去20年で倍増しており、元気な高齢者が要介護状態になることの防止、就業支援などによる高齢者の生きがいがづくり、今後も安心して暮らせる環境づくり等が課題です。

さらに、障害者福祉については、ノーマライゼーションやバリアフリーの推進、就労支援の更なる強化等が求められています。

## D 参加と協働の推進

### 【特徴】活発な市民活動

小金井市内にはNPO法人は56（平成19年）を数え、そのほかにも多くの市民活動団体等が様々な分野で活動しています。また、市と市民活動団体等との相互の連携・協力を進めるため、小金井市協働推進基本方針を策定しています。市の重要な施策を実施するに当たっては、市民参加条例に基づき、住民参加による推進が実施されており、まちづくり条例・環境基本条例等の市民参加による制度づくりなどが進展しています。

### 【課題】市民との協働の推進

市民活動が活発化する一方で、核家族化による地域交流の希薄化、町会・自治会の加入者の減少等、地域とのつながりが薄い市民も多く、情報公開をより一層進め市民の自治意識を更に高め、多数の市民の意見を市の施策にどう反映させていくのかについては、市民ニーズを的確に把握する上でも課題となっています。

## E 行政サービスと行財政改革

### 【特徴】

全国に先がけた学校の耐震化を実施や「こきんちゃん」を活用したあいさつ運動など、特徴ある行政サービスを実施しています。また、市の財政の危機的状況を脱却し、経常収支比率が多摩26市の平均的な水準まで回復しており、財政状況は改善されつつあります。税収に占める個人市民税の割合が高く、法人市民税等に比べて、経済情勢の影響を受けにくく、税収が比較的安定しています。

## 【課題】多様な住民ニーズへの対応と行財政改革

社会経済環境の変化により、行政ニーズは量的拡大に加え、質的にも多様化・高度化する一方、市民意向調査では、行政サービスに対する満足度は他の施策に比べ低くなっています。公的施設が未整備または老朽化していること等が懸案の一つですが、よりきめ細かく住民ニーズに対応するためには、民間活力の導入や市民との協働を進め、行財政改革を推進することも課題となっています。

一方で、日本経済は安定成長期に入り、人口減少に伴う経済活動停滞の懸念等、外部環境は厳しさを増しています。本市においても高齢化に伴う福祉分野での負担増の一方、市民の課税所得の低下が市税収入減少につながる恐れがあり、計画的な行財政運営を行うことが必要です。

また、駅周辺のまちづくり、新ごみ処理施設や新市庁舎の建設、さらには平成35年（2023年）頃からと見込まれる人口減少や施設の老朽化、金利の上昇（公債残高の抑制）にも備えていく必要があります。

## 【参考（コラム）】市民意向調査

○住み続けたい

→A 自然環境が良い、B 都心への交通の便が良い

○移転したい

→E 公共・公益施設、行政サービスが充実していない、B 買物が不便

○重要度大・満足度高の施策

→A 緑と水の保全の拡大、A(B) 水道水の安全供給

○重要度大・満足度低の施策

→B 道路安全性向上とバリアフリー化、A ごみの減量・再資源化、C 誰もが安心して子育てできる体制の整備、

E 財政の健全化

## 【第3次基本構想の評価】

ほとんどの施策で進捗が見られ、全体的には市民の満足度は高まってきている。

一方で施策別にみると、市民意向調査の結果やデータブックによれば、、、

## 4 まちづくりの基本姿勢

基本構想に関する取組は、この基本姿勢に基づいて実践します。これにより、基本構想のめざすべき方向の実現に向けて、参加する主体が足並みを揃えて行動することを可能にします。

### ① 市民生活優先のまちづくり

まちづくりは、私たち市民の「しあわせな生活」を実現するものです。

私たちは、市民ニーズに基づいて共に考え、市民の生活を守り発展（安定と発展）させることを最優先にしてまちづくりを進めます。

### ② 参加と協働によるまちづくり

まちづくりは、各主体の「参加と協働」により実現されるものです。

私たちは、人と人との絆を活かした、参加と協働による創造的なまちづくりを進めます。

### ③ 総合的なまちづくり

まちづくりは、小金井市の地域特性を踏まえて総合的に行われるものです。

私たちは、環境変化に最適に適応し、地域特性や一人ひとりの状況、事情を踏まえて、総合的、計画的に行います。

※最適：ある条件下で目的を達成するために最も適切な方法を「最適」状態といい、地方行政においては、ナショナルミニマム（全国的な最低水準）に対して、地域毎の最適状態をいう。ここでは、小金井市において、住民のニーズに応じた最適の政策の形成や統合が可能な状態をめざすことをさしている。

## 5 小金井市の将来像

### (1) 将来像

この基本構想では、平成32年度（2020年度）における本市の将来像を、

みどりが萌える・子どもが育つ・絆を結ぶ 小金井市

とします。

これは、みどり豊かな住環境、充実した教育活動、活発な市民活動という地域特性を持ち、子どもがのびのびと育ち、高齢者等が元気で安心してくらす、みんなの笑顔があふれる活力あるまちをイメージしたものです。そして、市民が「住みやすい」「住み続けたい」と思い、「住んでみたい」と思われるまちへ。それが本市の将来像です。

将来像実現を測る基本的な指標として、「住みやすさ」の向上と「住み続けたいと思う市民」の増加を目指します。

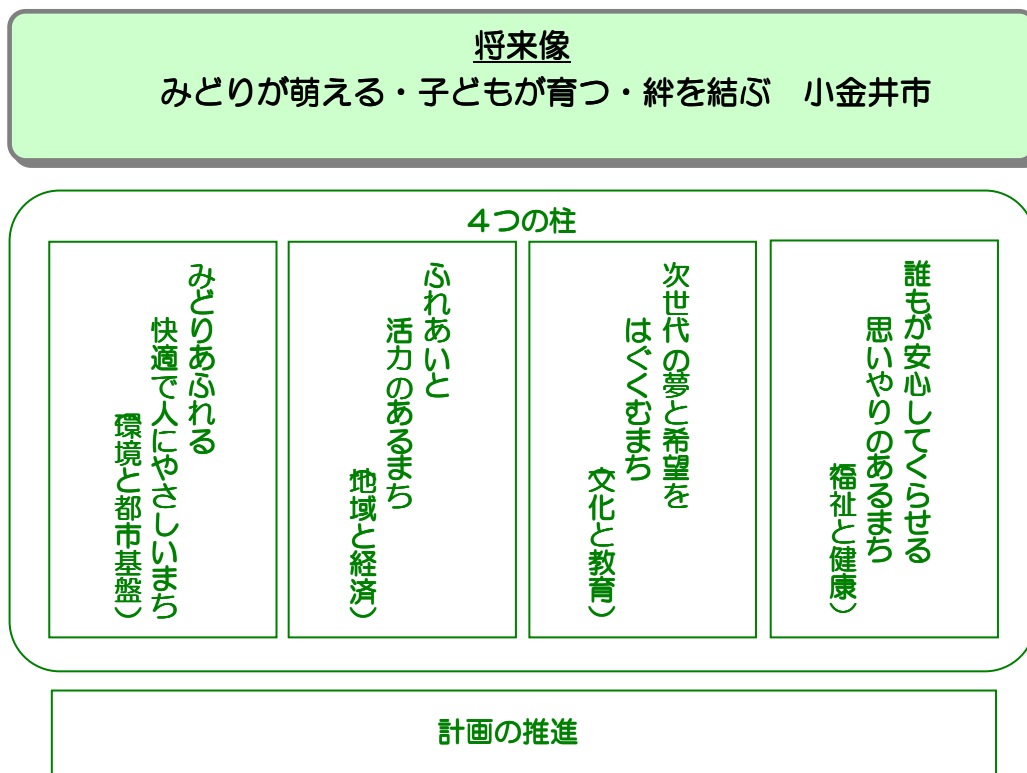
### 【基本的な指標】

評価指標1：「小金井市の住みやすさの向上」

評価指標2：「小金井市に住み続けたいと思う市民の割合の増加」

## (2) 将来像実現のための4つの柱

本市の将来像「みどりが萌える・子どもが育つ・絆を結ぶ 小金井市」を実現するために、まちづくりの基本姿勢を踏まえ、まちづくりの分野ごとの目標を立て、将来像実現のための4つの柱とします。



### ① みどりあふれる快適で人にやさしいまち（環境と都市基盤）

環境と都市基盤は、人々のくらしやすさまざまな地域での活動の礎となるものです。みどり豊かな自然環境は本市にとって最も大きな財産です。また、市民は、公共・公益施設の充実、ごみ問題、みどりと水の保全、施設と道路のバリアフリー化に高い関心を持っています。

みどりと水を守り育てつつ、駅周辺のまちづくりを進めることによって、自然環境と利便性が高いレベルで調和した、快適で人にやさしいまちづくりを進めていきます。

また、地域から地球環境を保全する取組、新ごみ処理施設の建設とさらなるごみ減量、市街地・住環境及び道路の整備、施設と道路のバリアフリー化等を推進します。

### ② ふれあいと活力のあるまち（地域と経済）

地域と経済は、いきいきとしたくらしを支えるものです。活発な市民活動は本市の特長であり、市民は、防災・防犯等の地域の安全、商店街の活性化に高い関心を持っています。

市民活動を活かして、コミュニティの充実を図るとともに、地域を支え地域に支えられる産業づくり（創造的産業・商業・工業・農業）を進め、ふれあいと活力のあるまちづくり

を進めていきます。

また、防災・防犯・危機管理等の安全な地域づくり、産学・商工農の連携、安心な消費生活支援等を推進します。

### ③ 次世代の夢と希望をはぐくむまち（文化と教育）

文化と教育は、くらしの豊かさを示すものであるとともに、地域の将来につながるものです。充実した教育活動は本市の特長です。また、市民は、学校教育施設と図書館等の生涯学習施設の整備に高い関心を持っています。

学校における教育活動及び学習環境をさらに高めるとともに、図書館・公民館等の生涯学習の場の充実を図り、次世代の夢と希望をはぐくむまちづくりを進めていきます。

また、（仮称）市民交流センター等を活用した文化・芸術の振興や、人権・平和・男女共同参画の取組、スポーツ・レクリエーション等を推進します。

### ④ 誰もが安心してらせる思いやりのあるまち（福祉と健康）

福祉と健康は、市民ひとりひとりが安心してくらししていくために欠かせないものです。活発で健康的な高齢者が多いことが本市の特長です。また、市民は、医療体制、高齢者福祉の充実や、安心して子育てできる仕組みづくり、バリアフリーのまちづくりに高い関心を持っています。

子育て・子育て支援を進めるとともに、高齢者が生きがいを持って安心して過ごせる、誰もが健やかに安心してらせる思いやりのあるまちづくりを進めます。

また、ノーマライゼーション、障害者や低所得者・ひとり親家庭への福祉、健康相談等の保健活動や緊急時を含む医療体制の充実等を推進します。

## 6 施策の大綱

### \*重点施策（プロジェクト）との関係は要整理

#### ①みどりあふれる快適で人にやさしいまち（環境と都市基盤）

##### <現況と課題の概要>

本市は、野川、玉川上水や、国分寺崖線、武蔵野公園、野川公園、小金井公園等、豊かなみどりと水に恵まれており、市民とともにこれらの貴重な自然を守り育ててきました。しかしながら、本市のみどりは減少し続けています。生活環境においては、大量生産・大量消費・大量廃棄といった社会経済システムの下で進行した地球温暖化等、地球規模での環境問題が深刻化しています。このシステムを根本的に改め、身近な地域からの徹底したごみ減量化、再資源化が強く求められています。さらに、本市の可燃ごみを処理してきた二枚橋衛生組合が平成19年3月末にすべての焼却炉の運転を停止したことに伴い、安定的に可燃ごみを処理するため、新ごみ処理施設の整備が喫緊の課題となっています。

まちづくりにおいては、J R中央本線連続立体交差事業に併せて、駅周辺でのまちづくりと都市計画道路等の整備を進めてきました。J R中央本線連続立体交差事業の完成は目前に近づいており、それに連動した武蔵小金井駅・東小金井駅周辺の市街地及びさらなる都市計画道路等の整備や、公共交通体系の見直し等が課題となっています。また、インフラや施設の耐震化・バリアフリー化等による快適で安全な住環境づくり、下水道では耐用年数を迎える施設の更新に向けた取組が求められています。

#### ■ みどりと水 ■

本市の豊かなみどりと水を守るために、市民の自然を守る心を高め、市民参加による公園・緑地づくり等、みどりをはぐくむしくみづくりを進めます。「はけ」や玉川上水等をはじめとする市内の水とみどりの保全に取り組むとともに、公園・公共施設・道路等の緑化を進めることにより、みどりのネットワークとゾーンの形成を図ります。

また、地下水の涵養と湧水の回復のため雨水の貯留浸透を進めることにより、清流の復活に取り組むだけでなく、さらなる水辺の創出を推進していきます。

#### ■ 地域環境衛生 ■

環境への負荷を最大限軽減し循環社会の形成を図るため、市民・事業者・行政が一体となり、ごみ減量・再利用・再資源化の推進を図ります。

また、将来にわたり安定的な可燃ごみ処理を行うため、東京都及び関係団体と連携し国分寺市との共同処理に向けて周辺住民との信頼関係を重視しつつ、新ごみ処理施設の建設を推進します。また、同施設が稼働するまでの間は、多摩地域の多くの自治体並びに一部事務組合に可燃ごみの処理をお願いしなければならないことから、引き続きそれらの施設周辺にお住まいの皆さまや関係者のご理解をいただけるよう努めます。さらに、中間処理場については、施設の老朽化に対応し循環型社会の形成に資する施設として再整備を図ります。

まちの美化については、「ごみを捨てない」という教育と一体となった意識啓発や地域ぐるみの清掃活動、喫煙マナーの向上等、市民の協力を得て清潔で美しいまちづくりを推進します。

## ■ 人と自然の共生 ■

地域から地球環境を保全する取組を進めるため、地球温暖化対策の計画的な推進やクリーンエネルギーの導入促進等により、環境にやさしいしくみづくりを進め、地球環境への負荷の軽減を図ります。

また、騒音等、都市型・生活型の環境問題については、市民、事業者、行政等が一体となって対策を講じるとともに、測定・見守り体制の充実や生活環境問題に対する意識向上を図ります。

## ■ 市街地整備 ■

武蔵小金井駅周辺は、本市の玄関口にふさわしいまちとするため、引き続き、再開発等により、商業・業務及び住宅との調和のとれた魅力ある文化性の高い市街地として整備します。

東小金井駅周辺は、土地区画整理事業等により、東部地区の中心として一部に商業、業務機能を持たせた地区として整備を行います。

新小金井駅周辺は、みどりあふれる武蔵野公園、野川公園の玄関口として、みどりの連担軸を形作るなど自然環境を活かした市街地づくりをめざします。

J R中央本線連続立体交差事業完了後の高架下利用の推進を図ります。また、住民主体のまちづくりを支援します。

## ■ 住宅・住環境 ■

市民、事業者の参加・協力と、国・東京都との連携により、良質な住宅の供給を図るとともに、耐震化、防災・安全施設の整備や施設のバリアフリー化により、周辺環境と調和のとれた快適で安全な住環境の整備を図ります。

平成23年度末に東京都に完全に移管される上水道の緊急時の対応等に万全を期するとともに、下水道については、管路の耐震化・合流式下水道の改善・長寿命化対策等、維持管理の充実とともに、ライフサイクルコストの低減を図ります。

## ■ 道路・河川 ■

J R中央本線の関連側道、南北交差道路及び都市計画道路の整備、生活道路の安全性向上を進めるとともに、道路の電線類地中化及び交通関連施設のバリアフリー化を推進し、人にやさしい交通環境の整備を図ります。また、駅前広場の整備、バス輸送の見直し、自転車駐車場の整備等により、円滑で利便性に優れた交通環境の整備を促進します。

野川・仙川については、より一層の治水対策とともに、市民が憩う親水の間としての整備を東京都に要望します。また、用水路は、地域の状況にあわせて、清流復活や遊歩道化等を行います。



## ②ふれあいと活力のあるまち（地域と経済）

### <現況と課題の概要>

本市では、NPO等の市民活動は活発化している一方、核家族化による地域交流の希薄化等により、町会・自治会の加入者の減少等、地域とのつながりが薄い市民も多くなっています。また、身近な犯罪の増加等により、地域の安全・安心に対する期待が高まっています。

地域経済では、多摩26市平均と比較すると小売業・工業ともに事業所数が少ないのが現状であり、本市の特性にあった創造的産業の育成や市民ニーズに合った商業の振興や住環境と調和した工業の振興が課題となっています。農業についても、農家数・経営耕地面積等が減少しています。また、産地偽装問題等による消費生活における安全・安心が求められているとともに、経済の先行き不透明化等により雇用不安が高まっています。

### ■ コミュニティネットワーク ■（※目玉となる施策、大学連携を考える。スリーデーマーチや科学の祭典等、現在でも多数ある市民イベント更に盛りたてる施策も有効。）

NPO等の市民活動の拠点として（仮称）市民協働支援センター等を整備し、市民の自主的な活動を支援するとともに、大学・企業・団体等の地域活動を促進し、参加と協働によるまちづくりを進めます。

また、コミュニティポータルサイト等により、地域での生活・活動に関する情報を総合的に提供する場の整備を促進し、地域連携のための地域情報ネットワークの推進を図ります。

### ■ 地域安全 ■（※自助・共助を強調する）

計画的な防災、国民保護の推進とともに、さまざまな状況に対応できる危機管理体制を強化します。防災については、市民の防災意識の向上、自主防災組織等の防災体制の強化を図り、防災コミュニティづくりを進めるとともに、防災機能の強化のため、消防団の設備・装備及び災害対策物資・設備の充実を図り、防災活動の拠点となる防災センターを庁舎の建設と併せて整備します。

防犯については、市民の防犯意識向上を図るとともに、地域での見守り活動等を推進し、地域ぐるみの防犯対策を推進します。

### ■ 創造的産業 ■（※法人市民税増収策、サービス産業振興、目玉となる施策を考える）

大学連携型起業家育成支援施設の活用等による産業振興を計画的に推進し、ベンチャー・SOHOの支援や産業振興のための産業基盤を整備して、研究開発型の産業、情報・環境・福祉・健康等の成長産業、地域資源を活かしたコミュニティビジネスの育成・誘致を図ります。また、商工農業の情報交流・ネットワークの充実を図ります。

### ■ 商業 ■（※目玉となる施策、観光を考える）

商業振興を計画的に推進し、駅周辺や商店街の環境整備を図るとともに、市民ニーズを把握し

て、新たな出店・サービスを拡充して、地域を支え、地域に支えられる魅力ある商業・商店街づくりを進めます。

また、地域の魅力を発信し、魅力あるイベントを進め、地域資源を活かした観光を推進します。

## ■ 工業 ■

小規模な工場が住宅地に混在している状況を踏まえ、住環境との調和に配慮しつつ、大学連携型起業家育成支援施設を拠点とした産学官連携の取組等により、経営及び高度技術化を支援し、地域産業のPRや地域との交流推進を図ります。

## ■ 農業 ■

農地を保全するとともに、市民やNPO団体等と協力しながら担い手の育成や、認定農業者制度を推進する等、農業経営の安定化を図ります。また、農業情報発信拠点を整備し、江戸東京野菜等地元産農作物の産業化に努め、地場製品の流通を促進します。

さらに、営農者や農業団体・市民の協力により、食育の支援やふれあい農業の充実を図ります。

## ■ 消費者生活・勤労者の福祉 ■

安全・安心な消費者生活を支援するため、市民の消費生活意識の向上と正しい知識及び情報の普及を進めるとともに、関係団体との連携により、相談事業の充実を図ります。

勤労者福祉については、市内は中小零細企業が多いため、勤労者福祉サービスセンターを通じて、福利厚生対策の充実と労働環境の向上を図ります。

## ■ 雇用 ■

創造的産業の育成・誘致や地域で暮らす上で不可欠な生活サポート産業の充実を図ることにより、雇用機会の促進・拡大に努めます。

また、就業の面と生きがい対策といった面から、高齢者の能力や経験を活用できる雇用の機会の確保を図るとともに、障害のある人の雇用を促進し、社会参加と自立を支援していきます。

### ③次世代の夢と希望をはぐくむまち（文化と教育）

### ③豊かな人間性と次世代の夢をはぐくむまち（文化と教育）

#### <現況と課題の概要>

市民文化については、芸術文化振興条例の制定、はげの森美術館の整備等を行うとともに、市民交流の場・芸術文化ホールである（仮称）市民交流センターの整備が進められています。人権・平和・男女共同参画では、非核平和都市宣言・男女平等都市宣言を行い、平和講演会やこがねいパレット等の取組を続けてきました。

生涯学習の分野では、読書や学習スペースを求める市民ニーズに対して、築40年近い本館をはじめとする図書館は、物理的に対応できていない状況が見受けられ、早急な対策が求められています。公民館・スポーツ施設についても、施設の整備が必要です。

学校教育は、家庭・学校・地域の連携と努力により、都内でもトップレベルの学力を誇っています（※背景となる落ち着いた教育環境・地域との関係、意識の高さ）。市内小中学校すべての校舎の耐震工事が完了した一方、校舎の老朽化への備えや機材及び設備の充実が課題となっています。また、学校と地域のさらなる連携が求められています。

幼児教育では家庭での教育への支援等が求められています。（\*幼稚園の閉園（コミュニティへの影響）や保育園→幼稚園（幼保一元化）の踏まえた課題の設定、施策（柱立て）の検討があつてよいのではないかという意見あり）

#### ■ 文化・芸術 ■

市民と行政の参加と協働により、個性豊かな市民文化の創造、芸術文化活動の推進、歴史的文化の保全と継承等、総合的な文化振興を推進するとともに、（仮称）市民交流センターやはげの森美術館の文化施設を効率的に運営し、芸術文化事業を積極的に推進します。

また、都市間交流や、多文化共生社会の実現に向け、地域に居住する外国籍市民との交流を促進します。

#### ■ 人権・平和・男女共同参画 ■

誰もが尊重され平和に暮らせる社会を目指して、人権の尊重、平和に対する意識啓発の充実を図るとともに、男女がともに自立し、性別にかかわらず個性と能力を発揮できる社会の形成に向けて、家族、学校、職場、地域等あらゆる場を通して男女共同参画を進めます。

また、女性の就業機会拡大のための環境整備を図るとともに、生涯を通じた男女の心身の健康支援の充実を図ります。市民のより充実した生活のために、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現を推進します。

#### ■ 生涯学習 ■

生涯学習の計画的な推進により、大規模な図書館中央館、公民館及び（仮称）貫井北町地域センターの整備等、活動の場の充実を図るとともに、人間性豊かな学びあいの地域づくりを目指して、生涯学習活動に対する支援、情報提供やネットワークの整備を図り、市民協働により、生涯

学習活動を推進します。

### ■ スポーツ・レクリエーション ■

市民のスポーツ・レクリエーション活動の多様なニーズに応える支援として、団体・組織の育成、各種スポーツ行事・教室の開催等により、スポーツ・レクリエーション活動の振興を推進します。

また、平成25年の東京国体に伴うスポーツ・レクリエーション施設の整備や学校体育施設の活用、地域や近隣市との連携を通して、施設の活用を図ります。

### ■ 学校教育 ■

学校教育の計画的推進により、児童・生徒一人ひとりが夢を持っていきいきと学習できるよう、時代に即した教育内容、特別支援教育、児童生徒及び教員の心と体のケア、教職員の研修・研究の充実を図ります。

また、地域社会に開かれた学校の実現を目指すとともに、校庭の芝生化等（※一部委員に違和感あり）、教育施設・教材等の整備・充実を図り、学習環境のさらなる整備・充実を進めます。

### ■ 幼児教育 ■（※子ども家庭福祉に含めるか、重点プロジェクトで対応するか）

重要な役割を担う家庭での幼児教育を支援するため、親と子のための講座や親に対する相談事業を充実するとともに、図書館等における親子の学習機会の拡大を図ります。

また、幼稚園の安定的存続のために運営面・管理面での助成を行うとともに、幼稚園児の保護者負担軽減のため、補助制度を継続し、国や東京都へ現行制度の拡充を要請します。

## ④誰もが安心してくらする思いやりのあるまち（福祉と健康）

### <現況と課題の概要>

本市では、地域包括支援センターの充実等、介護保険事業の充実を進めてきましたが、高齢者数は過去20年間で倍増しており、高齢者の生きがいがづくり、今後も安心してくらする環境づくりが課題となっています。子育てについては、15歳未満の年少人口比率は他の自治体と比べても低下が進行しており、待機児童の増加、家族形態や生活の多様化等に対する保育サービス等の子育て子育て支援の充実が必要となっています。

また、ノーマライゼーション（要解説）の推進による高齢者・障害のある人も安心してくらするユニバーサルデザイン（要解説）によるまちづくりや、低所得者・ひとり親家庭福祉の充実、生活習慣病の予防や食育等による健康づくりの推進が求められています。

### ■ 高齢者福祉 ■

元気な高齢者が社会に積極的に参加できるよう、活躍の場の拡充や世代間交流の促進を図るとともに、高齢者の安心・生活支援のため、身近な場所での相談体制やかかわりの必要な高齢者への支援体制の充実、関係諸機関とのネットワークの整備を推進します。

また、高齢者ができる限り元気に暮らせるよう、高齢者自身の参加による「小金井さくら体操」等の健康づくりや地域で支えあう仕組みづくりを進めるとともに、支援や介護が必要となった高齢者には、状況に応じた適切なサービスを提供できるよう、社会全体で支える体制を整える介護保険事業の充実を図ります。

### ■ 子ども家庭福祉 ■

子どもの健やかな成長のために、子どもの権利が守られ、子どもがさまざまな体験と仲間づくりができる場を整備する。子ども施策に当たってはそれらへの計画段階からの子ども自身の参画を進める等の（※お客さんとしてではなく子ども自身が主体的に関わるという視点）子育てを支援するとともに、保育サービス、相談体制・情報提供等の充実を図り、誰もが安心して子育てができるよう、子育て家庭の支援を進めます。

また、地域の連携とあたたかい見守り等により、子どもや子育て家庭の安全で安心な環境づくりを推進します。

### ■ 障害者福祉 ■

障害のある人が尊厳を持ち、安心して、希望を持って社会生活が営めるよう、それぞれの声を聴きながらノーマライゼーションの推進を図るとともに、家族支援を含め、くらしの保障・支援、教育・保育や障害福祉サービス等の充実により、日常生活を支援します。

また、障害の早期発見と療育ができる体制整備や発達支援等の相談機能の充実を図ります。

### ■ 低所得者・ひとり親家庭福祉 ■

全ての市民が健康で文化的な生活を送ることができるよう、心身共にサポートし、生活困窮者を保護してその人権が尊重される適切な支援を行うとともに、就労等の自立の支援を進め、福祉の向上を図ります。

ひとり親家庭については、経済的自立と安定した生活を営めるよう、実情を把握して必要な支援を充実します。

## ■ 健康・医療 ■

市民自らが健康の保持と増進を図れるよう、健康教育や食育、健康相談等を充実するとともに、健康診査や予防接種等により、疾病の早期発見と予防に努めます。

また、医療機関との連携と協力体制のもと、地域医療体制の充実、わかりやすい広報やかかりつけ医の普及を進めるとともに、福祉との連携を図り、だれもが安心してらせるよう、医療保障制度の拡充に努めます。

## 7 計画の推進

この基本構想は、私たち（本市）の将来像である「みどりが萌える・子どもが育つ・絆が結ばれる 小金井市」を実現して、小金井市のさらなる発展をめざすものです。将来像に向けて、4つの柱を推進するために、市民参加・市民協働、行政経営、計画的行政の推進、財政・財務の健全化を図ることが必要です。

### <現況と課題の概要>

本市における選挙の投票率は都内・多摩平均と比較し高い傾向にあり、情報公開制度の利用や審議会等の公募委員への応募も増加しており、市ホームページには平成20年度で年間約290万件のアクセスがありました。このように小金井市は市民力が高く、潜在能力が高い市であり、今後の市政発展においては、市民との協働が大きなテーマとなり、職員の意識改革から市政運営の改革までが行政経営に求められています。

財政状況では、平成7・8年度に経常収支比率が全国ワースト1位になる等、危機的な状況にありましたが、行財政改革の推進等により一定の改善が図られました。しかし、経常収支比率等の財政指標はさらなる改善が必要であることに加え、さらに経済の先行きは不透明であり、少子高齢化に伴う税収減・行政需要の増加に伴う財政負担の増加に備える必要がある等、計画的行政を推進するとともに、財政・財務のさらなる健全化や効率化が必要です。

### ■ 市民参加・市民協働 ■

市民意向調査・広聴活動の充実等による市民ニーズの的確な把握を市政運営の起点とし、広報活動の充実や情報公開の推進と個人情報の適正な運用により、わかりやすい情報発信と堅実な情報管理を進めていきます。

また、市民参加条例に基づき、より多くの市民の参加が得られるよう、多様な市民参加を推進し、(仮称)市民協働支援センターの活用等により市民協働を支える体制を整備し、市内団体・NPO・企業・大学等との協働を推進します。

### ■ 行政経営 ■

公民連携等による地域の力を活かした市政運営をめざして、リーダーシップと執行体制の充実や行政評価の拡充等により、行政全体として最も効率的に効果を上げられる、自律した行政経営の確立を推進し、行財政の健全化と市民サービスの向上に努めます。

また、市民協働と効果的効率的な市政運営を進め、創造的なまちづくりに貢献できる人材の育成・活用と行政組織の活性化を図ります。

### ■ 計画的行政 ■

基本構想に基づいた総合的かつ計画的な市政運営を推進するため、施策の具体化とその実現方法を明らかにする「基本計画」、その事業と財政の裏付けを明らかにする「実施計画」を策定する

とともに、分野毎・課題毎の計画を体系的・総合的に策定します。

また、計画的施設整備の推進及び行政サービスの中核となる庁舎の建設を計画的に推進します。  
さらに、広域行政を推進し、広域的に取り組むべき行政課題には、関係自治体との協力、連携を図りながら対応を進めます。

## ■ 財政・財務 ■

不透明な経済状況にあっても持続可能な財政基盤を確立し、財政・財務のさらなる健全化・効率化を図るために、長期的展望に立った計画的かつ効果的、効率的な財政運営を推進し、都市基盤整備などさまざまな施策による税収構造の改善等、自主財源の拡充に努め、地方分権の推進と地方税財政制度の改善を国や東京都に働きかけていきます。

さらに、企業会計手法の活用や分かりやすい財政・財務情報の提供に努め、人件費等の経常経費の削減や受益者負担の明確化・適正化を図るとともに、財源の的確な配分と効果的、効率的な執行に努めます。



●基本構想の構成(社会潮流、市の特徴と課題、施策、将来像)

社会潮流		環境問題の深刻化 (自然)	経済の成熟化 (経済)	少子高齢社会の進行 (人口)	価値観の多様化 (社会)	地方分権の推進 (制度)
市の特徴と課題		みどりとごみ問題	駅周辺を中心としたまちづくり	子ども・高齢者等施策	計画の推進	
					市民参加・協働の推進	行政サービスの充実と行財政改革
快適	①環境と都市基盤	◎	◎	○	◎	○
活力	②地域と経済	○	◎	○	◎	○
夢	③文化と教育	○	○	◎	◎	○
安心	④福祉と健康	○	○	◎	◎	○



将来像 「みどりが萌える 子どもが育つ 絆を結ぶ 小金井市」 の実現へ

(参考)

みどりが萌える… 都立公園が3つあるなど、豊かなみどりは小金井市の大きな特長

(育つ) 市民意向調査の重要度・満足度も高く、市民はみどりを積極的に育ててきたが、それでも近年は減少している。

第4次では、みどりのネットワーク・ゾーンを増やし、第3次の将来像を承継し、更に発展させる。

子どもが育つ… 「子どもが元気なまちが発展する」が合言葉！ 子どもにとって、みどりが多く、教育活動が活発と理想的な環境。親にとっても、都心へのアクセスがよい等、仕事と子育ての両立がしやすい。世代間交流や子ども向け地域イベントも盛ん。一方、出生率は1.00と多摩26市で25番等の課題有  
第4次では、世代間の交流や、地域全体で子どもを見守る施策を更に進め次世代の夢を育み、まち全体を発展させる

絆を結ぶ… 小金井市は市民活動が活発で、多数のイベントが開催され、多くのNPO法人が活動している。

(笑顔が育つ)

参加と協働も近年は進み、各種条例の制定や協働推進センターの設立なども実施済。

一方、多数の市民の意見を市の施策にどう反映させるか、より多くの人との協働の推進に課題有  
多様化、高度化する市民ニーズに対応するためにも、第4次ではわかりやすい情報発信を起点に  
参加と協働を更に進め、市民の絆、地域の連帯を深める。

参加→市が行う施策に対して市民が関与すること 協働→市民が主体となっているイベント等に対して市が関与すること